

国連レバノン暫定隊 United Nations Interim Force in Lebanon (UNIFIL)

設立年月 1978年3月(2006年8月に規模・マンデート拡大)
設立決議 安保理決議425(1978)、1701(2006)
展開場所 南部レバノン **本部所在地** ナクーラ(Naqoura)
司令官 (司令官がミッションの長) Major-General Claudio Graziano (イタリア)
活動期限 2008年8月31日まで(安保理決議1773(2007))
任務 ①敵対行為の停止監視、②南レバノンへのレバノン国軍展開の支援及び調整、③民間人への人道的経路の確保及び避難民の帰還支援、④非武装地帯設置のためのレバノン軍支援、⑤武器の流入阻止のための国境管理の支援等

背景・経緯

1. 設立

1970年にヨルダンを追われたPLO(パレスチナ解放機構)は、南レバノンから対イスラエル武装闘争を継続したため、1978年、イスラエルはレバノン南部に侵攻、占領した。これを受けて、国連安保理は決議425を採択し、イスラエル軍の撤退確認、国際の平和と安全の回復、及びレバノン政府によるレバノン南部での主権回復の援助を任務とするUNIFILを設置した。

2. 拡大以前のUNIFILの経緯

- (1) 1982年6月、イスラエルが再度レバノンに侵攻し、レバノン南部を占領したため、UNIFILは、長期間にわたり任務を十分に履行できない状況となった。
- (2) イスラエルによる占領によりPLOは撤退し、その後、イスラム教シーア派民兵組織ヒズボラがレバノン南部を拠点に対イスラエル武装闘争を開始した。
- (3) 2000年5月、イスラエル軍は、レバノン南部からの撤退を開始し、同年6月、国連事務総長は、イスラエルが安保理決議425に従いレバノンから撤退したことを確認した。他方、シリア、レバノン、イスラエル国境地帯に位置するシェバア農場の帰属を巡り、ヒズボラは対イスラエル武装闘争を継続し、イスラエル軍との間で散発的に戦闘を行ってきた。
- (4) レバノン政府は、イスラエル軍の完全撤退後もレバノン南部での十分な支配を確立することができず、UNIFILのマンデート期限は6か月ごとに延長されてきた。
- (5) 2004年9月、国連安保理は、レバノンの武装勢力の解散・武装解除、外国軍(シリア)の撤退を求める決議1559を採択し、2005年4月には、シリア軍がレバノンから撤退したが、ヒズボラの武装解除は進展しなかった。

3. 安保理決議1701の採択

- (1) 2006年7月、ヒズボラによるイスラエル兵殺害・拉致事件を契機に、情勢が急激に悪化し、イスラエル軍がレバノン国内への空爆、地上部隊侵攻を行い、ヒズボラもイスラエル北部へのロケット攻撃で対抗した。
- (2) 同月25日には、イスラエル軍がUNIFIL関連施設を空爆し、要員4名が死亡した。
- (3) 国連安保理は、同年8月11日、敵対行為の全面的停止、レバノン軍及びUNIFILの南レバノン展開とイスラエル軍の撤退、UNIFILの拡大、イスラエルとレバノンによる恒久的停戦と長期的解決への支持要請、レバノン国内への武器等の流入禁止、レバノンの国境確定作業等を規定する決議1701を全会一致で採択した。
- (4) 安保理決議1701は、UNIFILの任務を拡大し、期限を2007年8月31日まで延長するとともに、部隊規模を最大1万5000名まで拡大することを承認した(その後UNIFILのマンデートは2008年8月31日まで延長されている)。

4. 近況

- (1) イスラエル、レバノン両政府は、安保理決議1701を正式に受け入れ、2006年8月14日、敵対行為の停止が発効した。その後の情勢は概ね落ち着いている。
- (2) 2007年3月14日の事務総長報告は、レバノン・シリア国境を通じた武器の流入に関する国境モニタリングに係わる独立評価ミッションの派遣を勧告、引き続き動向が注目されている。

派遣規模 (2007年8月31日現在)

部隊要員 13349名

要員派遣国 (同上)

ベルギー、中国、クロアチア、キプロス、デンマーク、フィンランド、フランス、マケドニア、ドイツ、ガーナ、ギリシャ、グアテマラ、ハンガリー、インド、インドネシア、アイルランド、イタリア、ルクセンブルク、マレーシア、ネパール、オランダ、ポーランド、ポルトガル、カタール、韓国、スロバキア、スロベニア、スペイン、タンザニア、トルコ

犠牲者数 (同上)

267名(事故110名、敵対行為91名、病気52名、その他14名)